

ICT部会の取り組み

「補習校で無理なく使えるICTの
知恵を提案します」

委員長 佐々木 常広
JOES担当 三井 知之

研究員を3つのグループに（2～3名ずつ）分けて作業を進めてきました

グループ1

馬橋 直子（メキシコ ケレタロ補習校）

北山 雅彦（インディアナ州、ブルーミントン補習校）

グループ2

西尾 由香（ワシントン州、シアトル四つ葉学院）

岩間 昌子（アイオワ州、デモインキッズ日本語教室）

西村 清志郎（カンボジア、プノンペン補習校）

グループ3

フレミング 奈津子（ニュージャージー州、プリンストン補習校）

嶋野 純子（モロッコ、ラバト補習校）

モース 結子（バージニア州、ニューポートニュース補習校）

グループ1

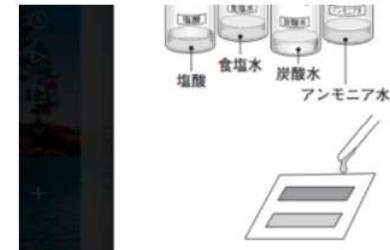
ICTを活用した授業（オンライン授業、対面授業、ハイブリッド授業）で、先生方や児童生徒がアプリを使った実践を行い紹介する。

ラウンジ

サイトにアクセスするだけで、ゲームやクイズ、アンケートなどが楽しめるアプリケーション。

zoomやmeetなどのオンライン会議中に活用することができる。

塩酸、食塩水、炭酸水、アンモニア水などの水溶液の性質を調べます。青いリトマス紙の色が変わりました。何性ですか。



正解 [10pt/1分00秒] : 酸性



実践例① ハイブリッド授業での実践（ケレタロ）

単元 「文字と式」

学習形態 登校生10名、オンライン1名

一人一台ずつ、タブレット、PCを用意して、各自でログイン。

学習の最後の習熟の時間の1時間を使って、計算問題に取り組んだ。



実践例② 第6回オンライン理科実験特別授業での実践

単元 「水溶液の性質」

学習形態 オンライン6名（アメリカ、メキシコ、ポルトガル、日本）

zoomでのオンライン授業中、各自のパソコン、タブレットからログイン。

実験が終わった後の最後の10分で振り返りとして、みんなでクイズに取り組んだ。



実践例③ 対面授業での実践 (ブルーミントン)

単元 「電池」

学習形態 登校生 2名

教室で通常の授業の実験の後のまとめとして、クイズに取り組んだ。

教員がログインをして、画面をシェアして、みんなの回答を書き込む。

問題の出題者はオンライン上で別の場所からログイン。



実践例④ オンライン授業での実践 (小規模日本語学校)

単元 国語「おにぎりプロジェクト」

学習形態 オンライン ハワイ2名、アメリカ国内4名

「最高のおにぎり」というスピーチの後に、交流の場としてクイズ大会を行った。

出題者も回答者もオンライン上で別の場所からログイン。

実践を通しての気づき・課題

* 授業形態によって、それぞれ効果的なアプリケーションがある。

今回はラウンジを使っただけの実践だったが、対面授業よりもオンラインの方が参加者のモチベーションが高く、効果的であった。

* 誰でも利用できるアプリケーション

ログイン、登録が必要なアプリケーションだと、前もって児童生徒の準備が必要である。

授業者だけがログインが必要で、児童生徒は特に準備がいらないものが利用しやすい。

生徒たちの作品や成果を残すには、Googleなどのサービスが必要。

グループ2

学校間のつながり（交流学習）、
合同授業の実践例を研究する。

「つながる」から「かかわり方」の模索へ

内容:2023秋実施のプロジェクト3つ

- ・小規模合同授業①「おにぎりアクションプロジェクト」
- ・小規模合同授業②「海のためにできること」
- ・オンライン授業「世界と日本の学びを繋げてみよう」

小規模合同授業①「おにぎりアクションプロジェクト」

概要：「おにぎりアクション」を通じた他校の低学年同士の交流

- ・「わたしのすきなおにぎり」の発表会
- ・クイズアプリケーション「ラウンジ」をつかったクイズ大会
- ・事後の作品発表（オンラインでの限定展示）

小規模合同授業②「海のためにできること」

概要：「三浦半島の海」をテーマにした合同活動

- ・欧州と米国の子どもたちを、日本のゲスト講師をつなぐ
- ・「世界の海、海流」をテーマにした課題文の事前学習
- ・ライブでの合同活動「海のためにできること」

オンライン授業「世界と日本の学びを繋げてみよう」

在外校と京都の小学校を結んだICT教科横断型合同授業の実施

【日程】日本時間 2023年10/25(火) 10/26(水) 10/27(木) 10/30(月)

【授業時間】(70分間) 日本時間 9:30~、

【対象学年】小学部4年、小学部5年、小学部6年

【関連する教科教科横断型】国語、英語、音楽、社会、道徳、ICT教育

国語(光村) *それぞれの単元の導入、発展活動、既習単元の振り返りとなる位置付け

*小学部4年単元「伝統工芸のよさを伝えよう」「パンフレットを読もう」

*小学部5年単元「古典芸能の世界—語りで伝える」「みんなが過ごしやすい町へ」「方言と共通語」

*小学部6年単元「古典芸能の世界—演じて伝える」「日本文化を発信しよう・パンフレット作り」

音楽 伝統音楽、文科省唱歌・日舞と琴

社会・道徳 我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材

AG+「ICT部会」研究授業 世界と日本の学びを繋げよう



立命館小@京都

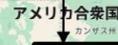
アメリカ

- デンバー補習校
- ヒューストン補習校
- サクラメント補習校
- ダラス補習校、
- ロサンゼルス補習校
- サンアントニオ補習校
- インディアナ補習校
- 三育学院サンタクララ校
- ポートランド補習校
- シアトル補習校
- シアトル四つ葉学院



カナダ

■ エドモントン補習校



アメリカ合衆国



コスタリカ共和国

■ サンホセ日本人学校



パラグアイ共和国

■ アスンシオン日本人学校



【活動のねらい】

日本の小学校と、世界中の補習校をZOOMで結び、日本の伝統文化と、それぞれの地域文化や特色について主体的に学んだことを共有。

教師主導ではなく、児童同士の主体的な活動の中で得られる「学び」を国語×音楽×英語×社会×道徳などの教科横断型授業の体験を通して、感想や意見、質疑応答しながら互いに学びを深め合うことが目的

教職員、教育専門家の感想 1

- 同年代の子どもたちが、実際に世界中で出会い、文化体験をリアルタイムで共有できた国際交流の授業となった。
- 文化の相対性を学ぶ経験や実体験を子供達が実現した。
- 課題としては、目的達成のための小グループでの練習の重要性を感じた。
- **コミュニケーション能力全般および母語での対話能力の向上につながる経験であった。**
- 国語、社会、音楽、英語、道徳とのコラボを通じた伝統芸能の共有に成功した。
- 夢が広がり、新たなチャレンジが可能と感じた。
- 子どもたちが恥ずかしさや、ためらいを乗り越え、対話や交流を通じて成長した様子がみられた。
- 教育的な価値として、失敗を受け入れる大人側の寛容性が問われる。
- **他国他州、そして日本に住む子どもたちが、初めて会う他者との関係を、時差や国境だけでなく心の距離をも縮めようと、「関わり方」を試行錯誤しながら学んでいる子ども達の伸びやかで素直な「学びの姿」は大変印象的だった。**

教職員、教育専門家の感想 2

- 初めての取り組みには困難が大きいものだが、4日間にわたり、多くの子供たちに参加の機会があった。
- **子供あつての活動なので、予想外のことはたくさん起こるので、課題については、それらはお互いにカバーして工夫が必要である。**
- 子どもたちの頑張りが伝わってくる合同授業だった。時空を超えて、同じ意見だったり「私も知ってる」と言われたりしたときの
- 嬉しそうな顔、一方、「いままで知りませんでした」と言われたときの誇らしげな顔。子供たちのチャレンジと繋がりの実感は、大きな教育効果となって子供たちに残っていくと思う。子どもたち自身にとっても、可能性を感じたりリモートになったのではないか。
- 日本語、英語に関わらず、今回のブレイクアウトルームでの子どもたちのみのやりとりに、「対話」の本質、CEFRのいうところのmediation仲介のソーシャルコミュニケーションスキルに関わる要素がある。子供達主体で、対話セッションに責任を持ち切ることは対話と協働の取り組みに、必要なタスク設定であった。

参加児童の感想（在外校）

- 日本の学校や、他国の学校生活、伝統工芸や他地域に興味を持った
- グループ発表や質問に挑戦し、緊張を克服できた
- **日本語や英語での会話が楽しく、日本語の練習をもっと強化したいと意欲をもった。**
- 新しいことを知り、楽しい経験だった。
- **お互いの地域について伝え合える機会がとても良かった。**
- 他校とのコミュニケーションが取れ、貴重な体験だった。
- 京都の文化発表や琴の演奏、日舞を楽しむ事ができた。
- 日本に友達ができ、日本文化や京都にさらに興味が湧いた
- 踊りや三味線の練習に費やした時間と努力に感嘆した。

参加児童の感想（日本@立命館小）

感想

交流で日本語だけで話さないといけないと思っていたけど、日本語もペラペラだったので話しやすかったです。

楽しかったこと

いつも外国の人に会って話すことは、全然ないので今回沢山の国からこんなに立命館に会いたいと来てくれてうれしくてしかも楽しくお話ができました

日本語が母語じゃないのに日本語がうまくてびっくりしました。時間が余っても日本語が話せるから話が進みました。

外国の人ががんばって作っていたので楽しかったです

楽しかったことはお琴を弾いたり雑談したことです

感想

全然わからないのに頑張って踊ってくれたことです

四つ葉学院交流 良かった事など

日舞を踊る時少しだけ、覚えていませんでしたが、ちゃんと最後まで踊れたことです。普段、会えない人とたくさん話せたので楽しかったです。

感想

交流で楽しかったことは、日舞の時に一緒に踊ってくれたり、英語の方が得意な子でも私たちに合わせて英語で話してくれたことです。そして、質問にもちゃんと答えてくれたし、四葉学院の子たちは夜だったけれど、最後までよく聞いてくれたことがうれしかったです。

感想

この交流でできたことは積極的にしゃべることです。はじめは少し緊張していたけれど積極的に勝山さんが話しているのを見ているうちにできるようになりました。楽しかったのはおことです。もともと楽器が好きでたのしいと思えた時があってその時からずっと好きになりました。うれしかったのは最後に日舞でみんな一緒に踊ってくれたことです。あんな短時間で覚えてくれたのでうれしかったです。

感想

できたことは、コミュニケーションです。ジェスチャーなどをつかってうまく会話っぽいのができました

感想

今回の交流で楽しかったことは、最初は、相手が外国に住んでいる人だから英語で話さないといけないと思い込んでいたけれど、いざ、今日やってみると相手に日本語が通じて、こっちからたくさん質問したり、こっちが質問の受け答えをしたことです。

嬉しかったこと

意外とみんな日本語が上手でびっくりしました。日舞が上手と言われたのでやりがいがありました

嬉しかったことは、向こうの人とコミュニケーションをたくさん取れたことです。時間が余っても雑談をすることができたので良かったです。

<感想>

今日の交流授業を通して、新しい発見や感じたことを書きましょう。



今日の交流授業を通して、外国の事について、たくさん知ることができました。また、最初は、仲々話せなかつたし、少しきんちょうしていたけれど、だんだんと、向こうも、こっちも、話せるようになり、とても楽しかったです。私は、海外にいった事がないので、ぜひ行ってみたいと思いました。音楽でお琴の感想を聞いた時は、「とてもきれいな音色だった」「むすかしそうだけれど聞いてみたい」と言ってくれて、とてもうれしかったです。また、もう一度交流授業をやってみたいです。

<感想>

今日の交流授業を通して、新しい発見や感じたことを書きましょう。



みんな積極的に話したり、質問に答えてくれました。
向こうの時刻は9時と言っていました。すぐにお風呂に入って
ねると言っていて、こんなに時差があるんだなと思いま
した。とても笑顔で話してくれてとても進めやすく、
安心しました。日本にもあるマンガや、テレビアニメ、ニュー
ーズが好きな子もいました。とても楽しかったです。

<感想>

今日の交流授業を通して、新しい発見や感じたことを書きましょう。



まず、日本語がすごく上手でビックリしました。日本のことを知ってくれてるんだ!と思いました。

成長出来たと思った所は自分からたくさん話せたことです。学校でやっているお話タイムがすごく話し進め方を説明のしかたが良く出来たと思います。最初ははじめて合う人だからすごくきんちやえたけれど話をしていくうちに楽に楽しくて会話をすることが出来てうれしかったです! 一番かんばれた時は、おきさんと一緒に日本のやり方を教えた時です!

<感想>

今日の交流授業を通して、新しい発見や感じたことを書きましょう。



直接会うことはできなかつたけど、zoomを通して、おたがいに国のこと

や相手のことを知れたので、とても楽しかったし、よく分かりました。

びっくりしたことは、英語も日本語もしゃべっていたことです。

相手の人は、外国にいるのに、日本語がペラペラで、すごかったです。

日本のことをよく知っていたし、意見が心を交流できておもしろかったです。

またこういうことがあったら、次は直接会いたいです。

一緒に、スポーツをしたってあそびてみたいです。

<感想>

今日の交流授業を通して、新しい発見や感じたことを書きましょう。



今日はシートルの方だけでなく、コスタリカの学校の方も参加してくれたので、アメリカだけでなく、色々な国の文化を知ることができました。ゆかたの着方の説明をした時他にもゆかた持ってる、と自分のゆかたを見せてくれた子がいました。おことは音色がきれいだったと言ってくれました。次こういうことがあったら、いっしょにジャンボリミッキ-をおどりたいです。今回で英会話の力が少し上がったように感じました。日舞も上手くおどれていたとほめてくれたのでとてもうれしかったです。

<感想>

今日の交流授業を通して、新しい発見や感じたことを書きましょう。



今日は、色々な国の人と自分の国をこらりゅうしました。

シアトルの人から国^{のこと}をおしえてくれました。日本とちがう文化や気候、おんじいる人にも

か分からないこともしれたのでよかったです。英会話はまだあまりできなから、たけど、

ジェスチャーなどで会話できました。かんたんな単語だけと少しずつ英語を

かかんばっていきたいです。今日であらためて、英語をしゃべれるようになるのも

いいかなと思います。

今後に向けて

- 今回のICT合同授業では、今後のICT教育のために役立つ情報や教訓がたくさん得られた。
- 目的と規模、必要な準備、色々な形式などを検討しつつ、無理なく効果を上げる方法を提案していきたい。

グループ3

ICTを使う環境やICTを取り入れる良さについて研究する。

研究の背景（報告の概要）

ICTを使う環境や ICTを取り入れる良さについての研究

AG+の5年後ビジョンを意識した、ICT
部会グループ3の本年度活動報告概要

1. ICT環境の現状
2. ICT活用に関する考察
3. ICT部会の今後の方向性



分かったこと1 「補習校の多様性」

- 先行研究文献や報告文書からの情報収集
- AG5アンケート回答者の背景把握
- ICT活用上での一般的な問題点の整理
- ICT活用の有効性についての認識
- 補習校の所在地、規模、教育方針なども含めた在外施設の状況理解とその必要性
- 環境整備や活用につながる情報の種類と量
- ICT活用への関心度に見られる温度差

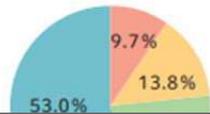
参考資料リンク (グループ3レポート)

F2. 補習授業校の規模

100人以上が115名と最も多く53%を占めたが、50人未満の小規模校からの参加も2割を超えていた。

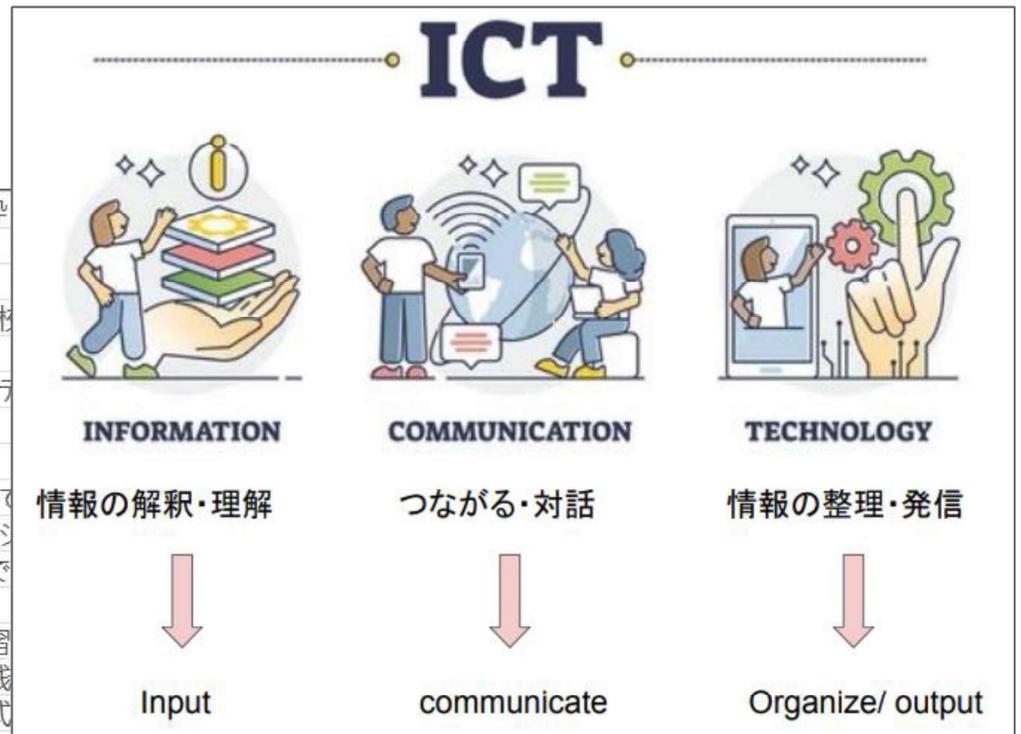
F2. 補習授業校の規模

| | 人数 | % |
|-------------|-----|-------|
| 30人未満 | 21 | 9.7 |
| 30人以上50人未満 | 30 | 13.8 |
| 50人以上100人未満 | 51 | 23.5 |
| 100人以上 | 115 | 53.0 |
| 合計 | 217 | 100.0 |



AG5 アンケートの記述式回答抜粋

1. 補習校独特の問題への対策
2. 管理職や国外のサポーター
3. できれば規模が同じくらいの学校
4. HP が少しわかりづらい
5. クラウド活用化、校務支援システム
6. 学年ごとの情報交換会
7. 規模別 (現状、課題、改善策)
8. 教材づくりのヒントを共有させて
9. アイディアを共有できるようなシ
10. 現地採用教師が自主的に参加で
11. もう少し少人数で交流
12. 派遣校長不在の中小規模の補習
13. 参考にできるような他校の実践
14. ワークショップ、グループ形式
15. 「AG5小1 講師グループ」「AG5中学部講師グループ」などの学年別グループ
16. 同じ学年を担当する講師との交流の場が欲しい
17. 小学部低学年担当講師と中学部講師では、ニーズが全く異なります



分かったこと2 「ICT活用上のニーズ」

(物理的・情緒的・機能的な情報)

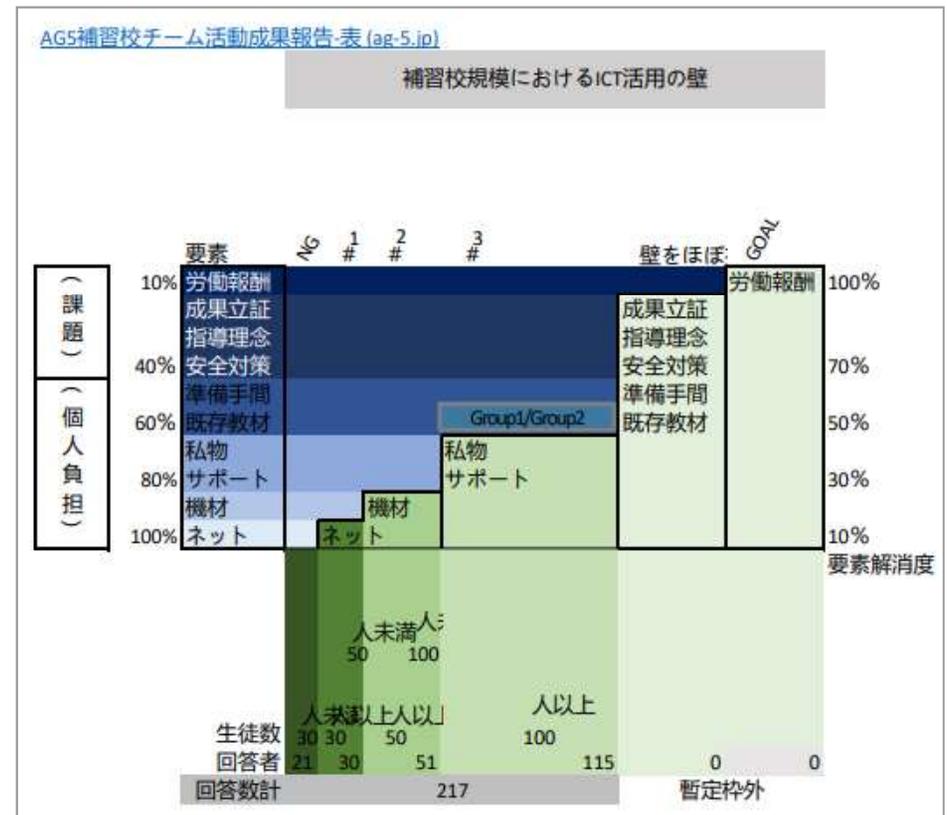
- 設備のための資金、知識、管理能力
- 継続的な活用を実践するための技術
- 活用に関する理解、意欲や関心、教育方針や理念

(有用実践の情報)

- 活用価値を共有できる実践情報
- 指導者と学習者を伴うコミュニティとその繋がり

参考資料リンク ([グループ3レポート](#))

- 物質的要素 {ICT設備}
- 機能的要素
 {教員 x 生徒の技術・知識}
- 情緒的要素
 {運営方針 x 教育理念}
- ICTモラル
 {教員 x 生徒 x 家庭理解}



分かったこと3 「部会内での情報共有の在り方」

(情報のアップデート)

- ICTの勉強ができる検討会/研究会への参加
- ICTの悩みが共有できる情報交換会への参加

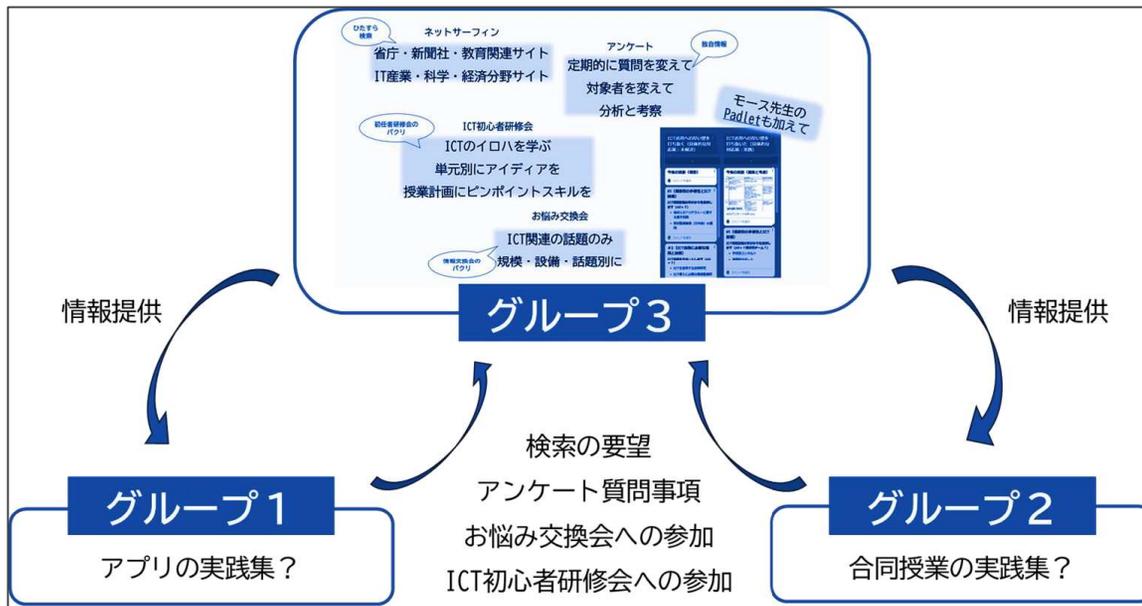
(情報の収集)

- アンケート実施などでICT活用に関する状況の把握

(情報の共有)

- ニーズに合った実践研究を検討、実践データの整理と共有の工夫

参考資料リンク (グループ3レポート)



ICT活用への厚い壁を打ち抜いた(具体的な対応策: 実践)

今年度の成果(分かったこと)

- #1 (補習校の多様性とICT設備)**
- ICT環境整備の手がかりを提供します (AG+? 補習校チーム?)
- ・ 学校別コンサルト
 - ・ 規模別サポート

- #2 (ICT活用に必要な環境と技術)**
- 研究会を計画します (AG+?)
- ・ 目的別(学年・教科・単元)や環境別のICT活用プラットフォーム整備
 - ・ 運営交流会(既存?)での講習
 - ・ 授業計画研究会(補習校チーム)での講習
 - ・ 補習校専用デジタル教材の開発 (ICT部会?)

- #3 (ICT活用に対する教員の意識)**
- ICT活用の実践例を提案します (AG+)
- ・ 教科・学年・単元別に活用できる無料アプリの実践報告 (Group1)
 - ・ ICTを活用した生徒交流・合同学習の実践報告 (Group2)

ICT活用への厚い壁を打ち抜くお手伝い(年度報告準備)

今年度の課題(課題と提案)

- 無理なく活用するために**
- ICT活用レベル
1. 教員個人と生徒/家庭がそれぞれ個別に操作
 2. 教員と生徒が同時期に操作
 3. 複数学級で同時期に操作

- ICT活用の情報提供の在り方**
- 実践例
- ・ 交流授業
 - ・ 活用アプリ
 - ・ 実践例整理
- 情報収集
- ・ 情報会や研究会への参加
 - ・ アンケート実施

今後の課題

{活用への設備と理解}

- 既存の補習校サポートとニーズの状況把握
- ICTモラルを含むICT活用の情報収集

{活用の実践知識と技術}

- 検討会/研究会・意見交換会など、情報提供の方法

{母体環境/教育意識}

- 有用実践データの整理と有効活用情報の分類

参考資料リンク (グループ3レポート)

【添付2】

ICT活用の例（教員による実用例の情報整理）

| 対象学年 | 活用の場面 (できること) | 目的【学習観点】 | データ通信 の必要性 | アプリケーション やサイト名 |
|------|---------------------------|--|---------------|--|
| 全 | 板書準備 (板書スライド再利用) | 板書時間の短縮 授業構成の事前確認 学習文字の可視化【読】 | 要/不要 どちらも可 | PowerPoint Google Slides Nearpod |
| 全 | 協働学習の事前準備 (活動用教材の再利用) | 板書時間の短縮 他学年との相互関連学習 複数学級間でのデータ共有 | 要/不要 どちらも可 | 生徒による実用例を参照のこと |
| 全 | 授業用動画 (学習用動画の取入れ) | 単元準拠視聴覚教育【聞】 日本語力の差への考慮 | 要 | YouTube NHKforSchool |
| 全 | オンラインでの学習活動 (授業/宿題の補助) | ゲーム感覚での学習 宿題の容易化 | 要 | 生徒による実用例を参照のこと |
| 全 | 教材の保存 (教材の再利用) | 教材管理 | 要 | Google Drive OneDrive |
| 全 | 学級設定 (保護者との共有) | 学級管理 | 要 | G. Classroom ClassDojo |
| 全 | オンライン授業 (遠隔授業の実施) | 教室のバーチャル化 遠方からの通勤通学可 校舎借用経費の削減 | 要 | Zoom Google Meet MS Teams WhatsApp等 |

今後の方向性

- ICTの勉強ができる検討会/研究会
- ICTの悩みが共有できる情報交換会
- ICTを活用した授業実践を提供するために、
目的別/単元別で情報整理

進化するICT事情の「情報収集」や教員の声を汲み上げる「アンケート」を並行して実施しながら、補習校で無理なく使えるICTの情報提供ができないだろうか？

本日のご参加
ありがとうございました

